

Bun voya!

越前市文化センターだより

Vol.6 2020. Autumn



あなたに聞きたい!



木下正道さん

今回は今年三十一回目の公演を終えた武生国際音楽祭に長年携わっていらつしやる福井県出身の作曲家 木下正道(きのしたまさみち)さんに寄稿して頂きました。

文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を...
皆さんこんにちは!武生国際音楽祭「新しい地平」アシスタントをやっています、木下と申します。私は大野の生まれで、ここで19歳くらいまで暮らし、その後東京に出て、今は作曲や編曲、演奏会の企画や即興演奏、また演奏会の様々なお手伝い簡単に言えば雑用係ですが、演奏会全体を仕切ったりすることもあります(などをしながら過っています。コロナの前は一年間に五回くらいは帰郷していましたが、今年はゆっくりしたのは正月だけでした。私は故郷大野をはじめとする、越前の文化や伝統、人々の暮らしや大自然をこよなく愛しております。それらに触れて「息づく」とは、私にとって何よりかけがえの無いことなのですが、コロナ騒ぎの後には思うようにそれも出来ず、やや鬱屈したりしております。

られるものを「ザリツ」とした感じで残して頂くことができます。この「考えさせられる」ことにより、演奏や作品などだけでなく、武生の聴き手は、世界的に見ても最も耳の肥えた人たちなのではないかとも思います。我々音楽家も育ちましたが、同時に聴いている人たちも育ちていきます(音楽家もまた聴き手でもあります)。私の今の活動は、武生国際音楽祭に参加することによって育まれたようなものだと思います。いや、実際そうなのですが、多くの作曲家、演奏家、また聴き手の皆さんと、幾多の時間と空間を共有し、いったい何を考え感じ、何をしたいのか、また何を聴きたいのかを、皮膚感覚として掴んで、それを皆と、ある種の共有財産とするような、この音楽祭のあり方は、極めて珍しく、また刺激的であります。少なくとも今のクラシック音楽界で「武生」の名を知らない人は殆どいません。ここに参加できてとても光栄であり、また誇りに思うと同時に、まあちよつと言いくいですが、大野出身の私としては、若干のひがみと言いますか、羨ましさがあるのも事実なのです...
さてそんな私が、なぜ武生国際音楽祭のアシスタントをやっているかというところ、もともとは受講生として参加したのになぜかボランティアスタッフに「取り込まれてしまった」のがきっかけです。この、なぜ「取り込まれてしまった」かの話はかなり長くなるので、今回はしません。まあ20年近く関わっていると、本当にいろいろなことがありました。楽しいこと、圧倒されたこと、勉強になったこと、は数知れずですが、悲しいこともいくつかあります。かともろもろひつくるめて、武生国際音楽祭の「パワー」は現在の音楽界に、強い存在感を醸し出しています。
毎年音楽祭は、とにかく「熱い」のです。実はプログラムは、かなりてんこ盛りとなっており、演奏家は一瞬たりとも気が抜けない、極めてハードなものとなっております。全身全霊を酷使しなければ対応できないのです。これがおそらく、武生国際音楽祭の最大の特長ではないかと思えます。

そんな中で、毎年「名演」「豪演」「超演」が繰り広げられるのですが、その中でさらに、20年いて、もう人生観を変えられた、というくらい凄い人々を紹介いたします。

○ピエリン・チェン

台湾出身でドイツ在住のピアニスト。音楽祭には一度だけ登場しました。あまりCDも出ていないのですが、もうこの人の演奏二時間聴いた後には、本当に人生観が変わったのです。我ながら吃驚しました。演奏されたモーツァルト、シエーンベルク、ベートーベン、シューベルト、もう「音楽」というのを超えて圧倒的な「体験」でした。ものすごいブラボーの嵐と、CD物販がすべてさばってしまったこともよく覚えております。

○伊藤 恵(いとう けい)

言わずとも知れた、音楽祭に欠くことの出来ない伊藤さんは、毎年、とことんまで練り上げた、かつ自然な音楽の喜びに満ちあふれる、素晴らしい演奏を聴かせてくれます。私の(現状での)ベスト演奏は、数年前に聴いたシューベルトの最後のソナタ(21番)で、絶えず伸縮する空間の中で、すべての音が意味深く語りかける、ちよつとこの世のものではないという形容がぴったりなものすごい演奏でした。

○田嶋 直士(たじま ただし)

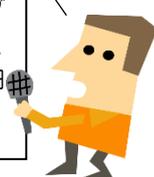
尺八の田嶋先生は、最初は何となく仏頂面の人かなと思っていました。その演奏の、第一音目を聴いて、まさに宇宙開闢(うちゅうかいびやく)のような音だ!!と思わせるに十分なものでした。それからは常に圧倒されっぱなしでした。舞台の配置や見せ方にもとことんこだわりますが、お話を伺うととてもぎこちなくばらんに色々語ってもらえました。もう演奏はとにかく尺八の醍醐味此所(こゝ)にあり、という極めつけですが、私も自作を何度も演奏していたので、色々学ぶところが多かったです。

今回はまさに「代表格」の三人をご紹介いたしました。もう紙面が切れますので、肝心

木下正道さんプロフィール

1969年福井県大野市生まれ。ブラスバンドやヘヴィメタルの経験の後、東京学芸大学で音楽を学ぶ。武満徹作曲賞などいくつかのコンクールに入選。アコースティック楽器のための作曲、演奏会の企画、電気機器による即興演奏、を三本の軸にして活動を展開。武生国際音楽祭では2001年よりボランティアスタッフとして参加。また2005年より毎年作品も演奏される。現在は「新しい地平」アシスタント。武生ゆかりの作曲家で結成したグループ「PATH」メンバー。2018年は6月に全曲新作で個展を開催し、好評を得る。その他多くの、特に若い世代の音楽家達による企画に、作曲家として、また即興演奏家として招聘され、作曲委嘱を受ける。

武生国際音楽祭については公式HPをチェック!
<http://takefu-imf.com/>



の「作曲ワークショップ」「新しい地平」に触れられずですが、とにかくこれらは三年続けて聴いてください!!絶対何かが得られます!!と強く推薦することにして、この文章を閉じたいと思います。どうもありがとうございました!また音楽祭でお会いできますことを楽しみにいたしております!

今年「映画の秋」!

映画上映会「人生をしまう時間(とき)」

日時:2020年10月3日(土)10時~、14時~、19時~(3回上映)
会場:大ホール(各回 限定300席)
入場料:一般1,000円 越の都ホール友の会800円 大学生以下500円

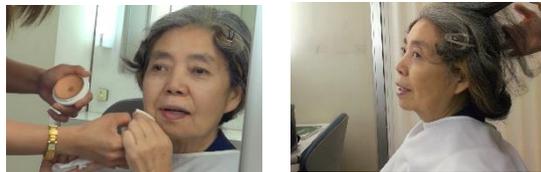
元東大病院の名外科医が最後に選んだ現場は、在宅による終末期医療だった。それぞれの人生の終わりに医療ができることはなんなのか、森鷗外の孫、小堀鷗一郎医師と在宅医療チームに密着した命の現場の記録。



映画上映会「“樹木希林”を生きる」

日時:2020年11月13日(金)10時~、14時~、19時~(3回上映)
会場:大ホール(各回 限定300席)
入場料:一般1,000円 越の都ホール友の会800円 大学生以下500円

唯一無二の女優「樹木希林」の仕事、家族との関係、そして、何よりも大切にしたい日々の暮らし。成り行き人生から学ぶ、生きるヒント。初めて許された長期密着取材による珠玉のドキュメンタリー映画。



ご来場の際には、感染症拡大防止のため、マスク着用・手指の消毒等ご協力をお願いいたします。



文化センターからこんにちは!!

劇場や音楽堂における芝居やコンサートなどの公演では、公演を支える裏方のスタッフが必要です。今回は照明スタッフの仕事についてお話しします。

照明スタッフの仕事は照明で作品を表現することです。手掛ける舞台の内容に合わせて演出家や演者と打合せを行い、使用する照明の機材や明かりのデザインを考えて、より効果的な演出を行うのです。光と影を駆使して演者や舞台をより美しく見せる役割を担います。そのため照明スタッフには機材の取り扱いや電気に関する知識だけではなく、美的センスも必要です。つまり舞台では演じる人だけでなく、照明や音響、美術・大道具など舞台を製作する裏方スタッフも表現者といえるでしょう。

また、作品展示のための照明も行います。もちろん照明で作品を傷めず、できるだけ自然に鑑賞できるような明りを考えます。

そして、忘れてはいけないのが照明機材や設備の管理です。照明機材の取扱いは火災や落下などの重大な事故につながる可能性があるため、しっかりとした保守管理が必要です。メーカーによる定期点検のみならず、担当職員による日常点検を行い、異常箇所の早期発見による突発的な故障や事故防止に努めています。

このようなメンテナンスによって、文化センターは舞台設備の耐久性を上げ、施設を安全に長持ちさせているのです。



新型コロナウイルス感染症防止のために(安心して越前市文化センターをお使いいただくための取り組み)

- ・会議室・練習室等施設の利用定員を通常の半分にしています。
- ・施設内各所に消毒用アルコールを設置しています。
- ・館内の換気に努めています。
- ・階段の手すり等、不特定多数が触れやすい場所は、清掃時にアルコール消毒を実施しています。
- ・ソーシャル・ディスタンス確保のため、案内表示やサイン等により注意喚起しています。
- ・催事の際には、ご来場の皆様への検温、手指の消毒をお願いしています。
- ・受付窓口ではフィルムシートを設置し、飛沫感染防止対策をしています。
- ・スタッフは、マスク(場合によっては、手袋、フェイスシールド)を着用して案内・対応をさせていただいています。
- ・スタッフは、毎日検温を実施し、健康状態を確認します。また、手洗い、手指消毒を徹底しています。



現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アンケートの回収を取りやめております。ご意見、リクエスト等ございましたら越前市文化センターまでお気軽にご連絡ください。

休憩中...



※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。 <http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

※Bunvoja!掲載の全ての講座・催しについては越前市文化センターまでお問合せください。

<発行・編集>2020年9月 越前市文化センター 越前市高瀬2丁目3-3 TEL:0778-23-5057 FAX:0778-21-1975

Bunvoja!は越前和紙を使用しています